

2024年度第2四半期 決算説明資料

2024年11月12日

出光興産株式会社

目次

- 公表内容のハイライト
- 2024年度第2四半期決算
- 中期経営計画の進捗にかかわるトピックス
- 参考資料
 - ✓ 決算補足資料
 - ✓ 数量データ
 - ✓ 原油・製品市況推移、製油所稼働率等
 - ✓ 事業概要

■公表内容のハイライト

2024年度第2四半期決算

■ 概要

- ✓ 営業 + 持分損益は、輸出マージン縮小や前年度在庫影響の反動等により、前年比▲978億円の減益
- ✓ 通期予想に対しては、堅調な国内マージン等により、順調に進捗

[億円]

	23年度2Q	24年度2Q	増減	通期予想 (5/14公表)
営業 + 持分損益	2,112	1,134	▲ 978	1,850
(在庫影響)	(167)	(▲ 6)	(▲173)	(0)
(在庫影響除き)	(1,946)	(1,140)	(▲805)	(1,850)
当期純利益	1,649	994	▲ 655	1,250
(在庫影響除き)	(1,534)	(999)	(▲535)	(1,250)

■ 通期業績予想

- ✓ 通期予想に対して順調に進捗しているものの、足元の油価下落等の状況も踏まえ、現時点での修正は行わない

■ 株主還元

- ✓ 実質的な収益力向上を踏まえ、24年度の年間配当予想を32円から36円へ増配、現中計期間の下限とする（中間配当実績18円、期末配当予想18円）

■ 2024年度第2四半期決算

トピックス

■ 燃料油需要と販売の動向

- ✓ 揮発油は乗用車保有台数減少や燃費改善等により、軽油は物流効率化等により、需要は減少
- ✓ ジェット燃料はコロナ以降の復便継続により、前年並み

	22年度	23年度	24年度2Q
主燃料 (揮発油)	100.9% (101.3%)	97.5% (97.9%)	97.9% (97.8%)
ジェット燃料	136.8%	105.7%	100.2%

※当社販売伸長率(前年比)

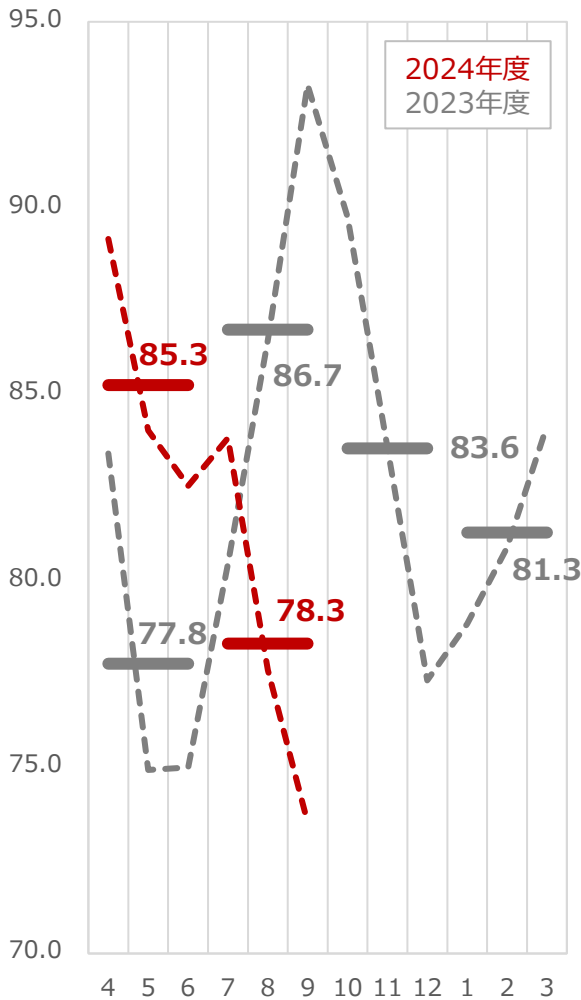
■ ベトナム ニソン製油所の状況

- ✓ 24年度上期は100%を超える高稼働等により営業黒字、下期は高稼働を継続もマージン縮小により営業赤字の見込み
- ✓ なお、23年度の貸倒引当金計上により、24年度の連結決算上の持分損益はゼロ
- ✓ 25年度の最終黒字化に向け、スポンサー間の建設的協議を継続

事業環境

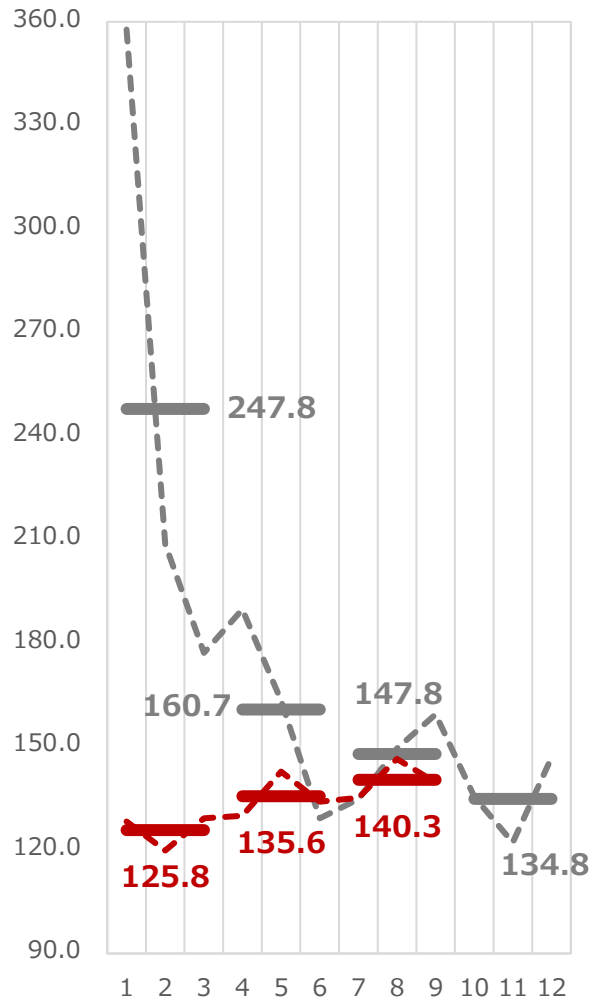
ドバイ原油価格

[USD/バレル]



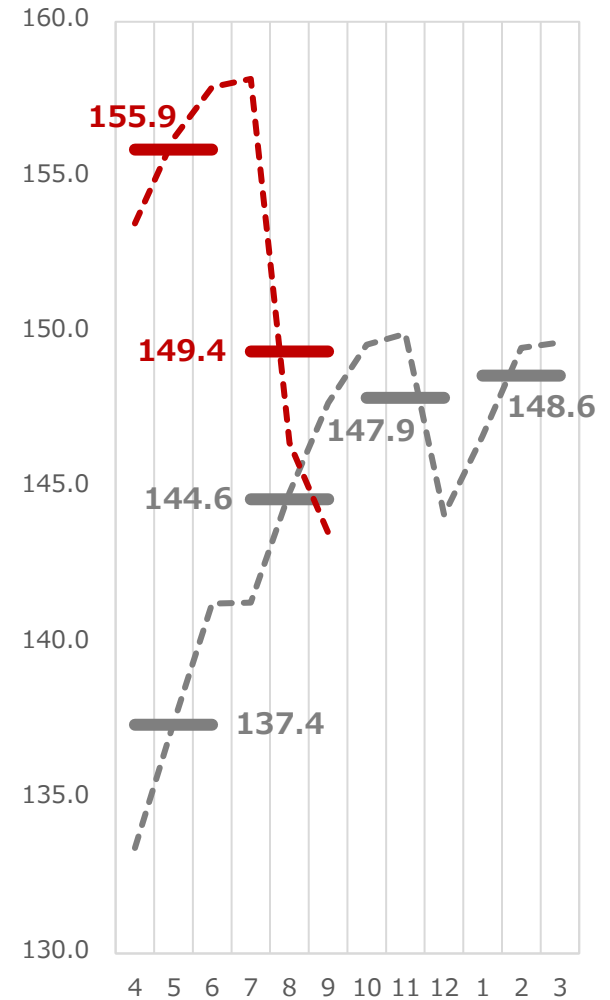
豪州一般炭スポット価格

[USD/トン]



為替レート(USD)

[円/USD]



決算概要

■ 原油、石炭価格および為替レート

[USD/バレル、USD/トン、円/USD]

	23年度2Q	24年度2Q	増減	
ドバイ原油価格	82.3	81.8	▲ 0.5	▲ 0.6%
ブレント原油価格*	79.8	84.1	+4.3	+5.4%
豪州一般炭スポット価格*	204.3	130.7	▲ 73.6	▲ 36.0%
為替レート	141.0	152.6	+11.6	+8.3%

*ブレント原油価格及び豪州一般炭価格は1-6月平均

■ 連結損益計算書ハイライト

[億円]

	23年度2Q	24年度2Q	増減	
売上高	40,245	45,040	+4,796	+11.9%
営業利益	2,029	973	▲ 1,056	▲ 52.0%
（内 在庫評価損益）	(167)	(▲ 6)	(▲173)	—
持分法投資損益	83	161	+78	+93.2%
営業+持分	2,112	1,134	▲ 978	▲ 46.3%
（在庫影響除き）	(1,946)	(1,140)	(▲805)	(▲41.4%)
経常利益	2,265	1,249	▲ 1,016	▲ 44.9%
特別損益	13	59	+45	+336.9%
当期純利益	1,649	994	▲ 655	▲ 39.7%
（在庫影響除き）	(1,534)	(999)	(▲535)	(▲34.9%)

セグメント別情報

■ 営業利益 + 持分法投資損益

[億円]

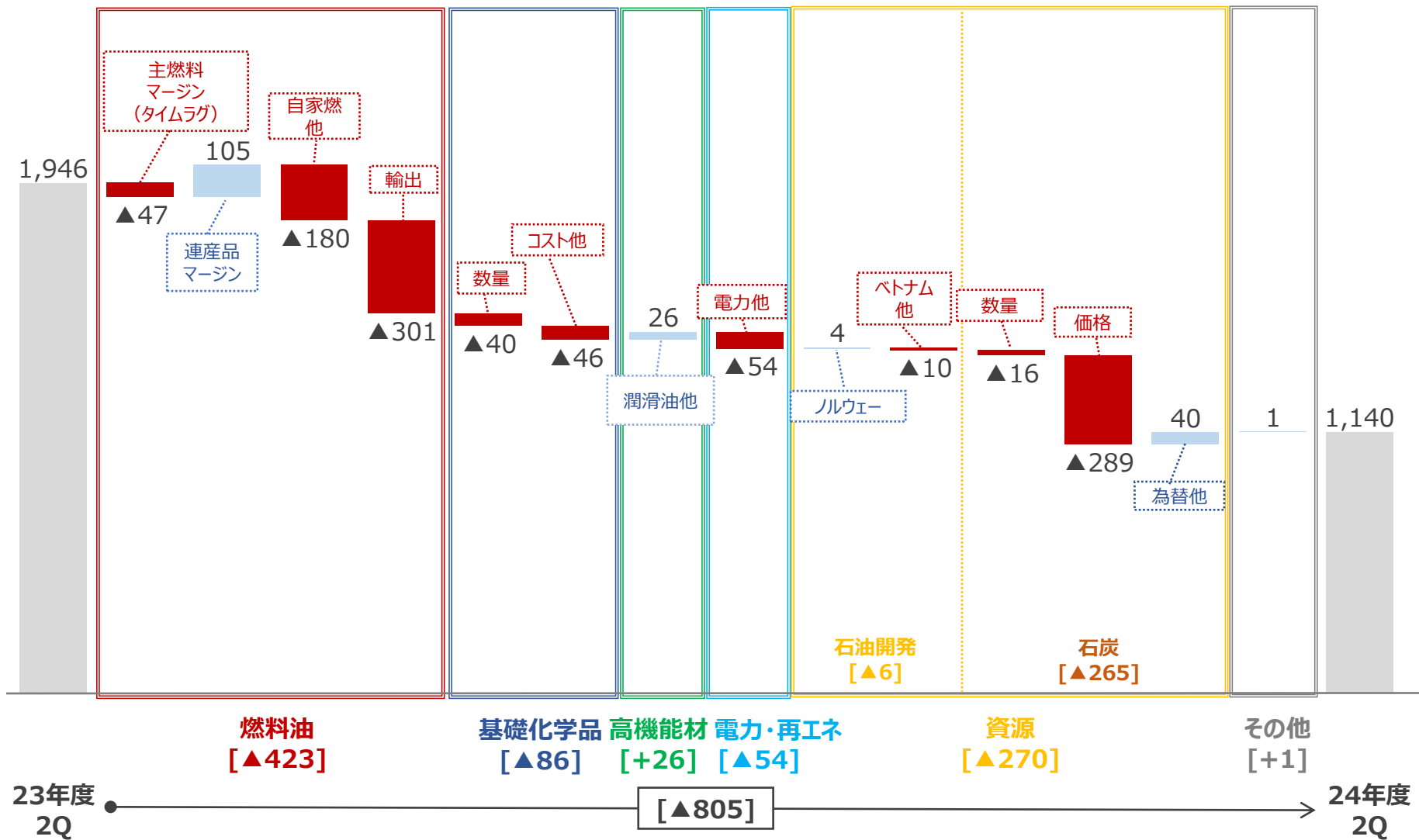
	23年度2Q	24年度2Q	増減		通期予想 (5/14公表)
燃料油	1,217	622	▲ 596	▲ 48.9%	1,020
(在庫影響除き)	(1,050)	(628)	(▲423)	(▲40.2%)	(1,020)
基礎化学品	120	34	▲ 86	▲ 71.6%	260
高機能材	134	160	+26	+19.7%	310
電力・再生可能エネルギー	▲ 4	▲ 58	▲ 54	-	▲ 30
資源*	698	428	▲ 270	▲ 38.7%	570
(内 石油開発)	(105)	(99)	(▲6)	(▲5.5%)	(120)
(内 石炭)	(593)	(328)	(▲265)	(▲44.6%)	(450)
その他	▲ 52	▲ 51	+1	-	▲ 280
セグメント合計	2,112	1,134	▲ 978	▲ 46.3%	1,850
(在庫影響除き)	(1,946)	(1,140)	(▲805)	(▲41.4%)	(1,850)

*資源に含まれる石油開発（うちIIN）及び石炭は12月決算

セグメント別情報

■ 営業利益 + 持分法投資損益増減分析 (在庫影響除き、前年比)

[億円]

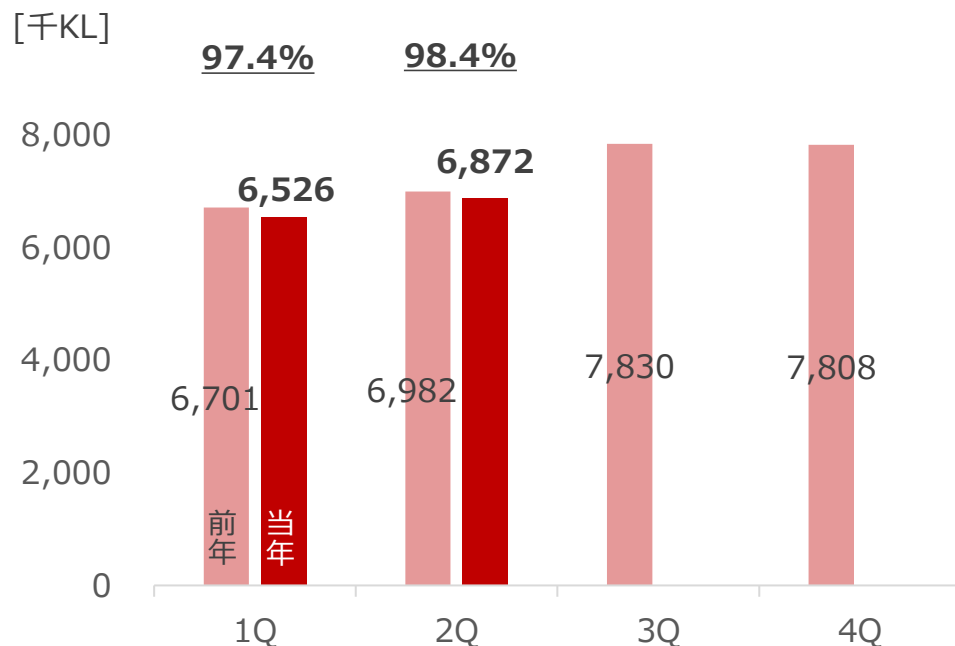


セグメント別情報

【燃料油】前年比▲423億円 (23年度2Q : 1,050億円 → 24年度2Q : 628億円)

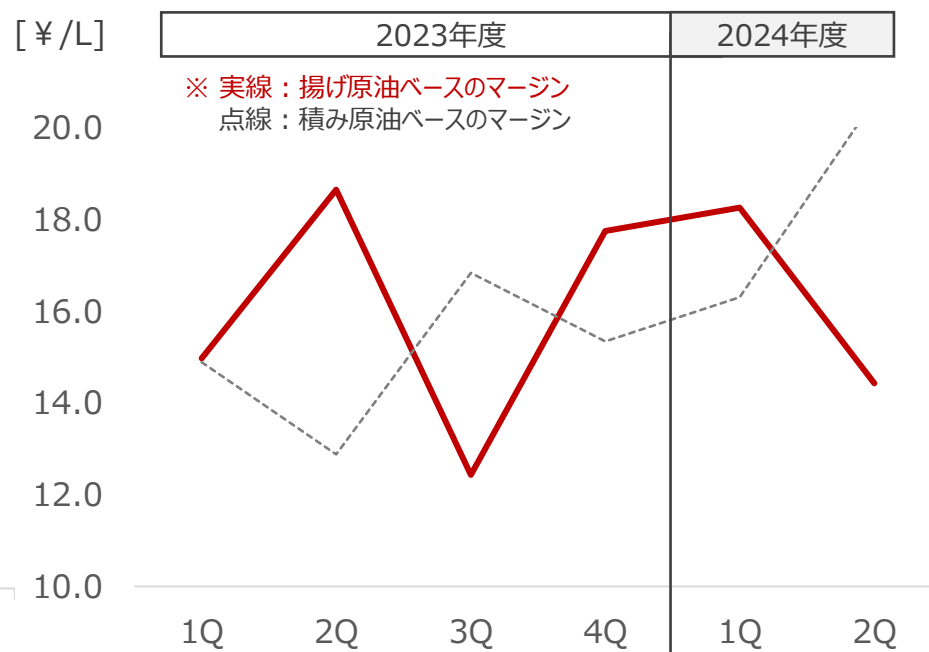
〈燃料油販売数量前年比(主燃料)〉

(前年比)



〈国内石油製品マージン*推移〉

*ガソリン・軽油・灯油・A重油の加重平均マージン(国内スポット-原油)



- ✓ 輸出を主因とし減益。海外マージンの縮小及び製油所トラブル等が影響
- ✓ 自家燃コスト上昇や国内販売数量減等も減益要因
- ✓ 国内マージンは、マイナスタイムラグと実質マージンの改善が相殺し、前年同水準

セグメント別情報

[基礎化学品] 前年比▲86億円 (23年度2Q : 120億円 ➡ 24年度2Q : 34億円)

- ✓ 装置トラブルによる数量減等で減益
- ✓ 製品マージンは主にPX, MXにおいて悪化。トータルでも減益要因

[USD/トン]

製品	23年度2Q		24年度2Q		増減	
	製品価格	マージン	製品価格	マージン	製品価格	マージン
PX	1,051	427	991	311	▲61	▲116
MX	957	333	885	205	▲73	▲128
SM	1,030	406	1,161	481	+130	+75

[高機能材] 前年比+26億円 (23年度2Q : 134億円 ➡ 24年度2Q : 160億円)

- ✓ 潤滑油は、販売ポートフォリオの改善等により増益
- ✓ 機能化学品は、価格改善等により増益
- ✓ 電子材料は、前年並みの収益水準。有機ELパネル需要は回復傾向

[電力・再エネ] 前年比▲54億円 (23年度2Q : ▲4億円 ➡ 24年度2Q : ▲58億円)

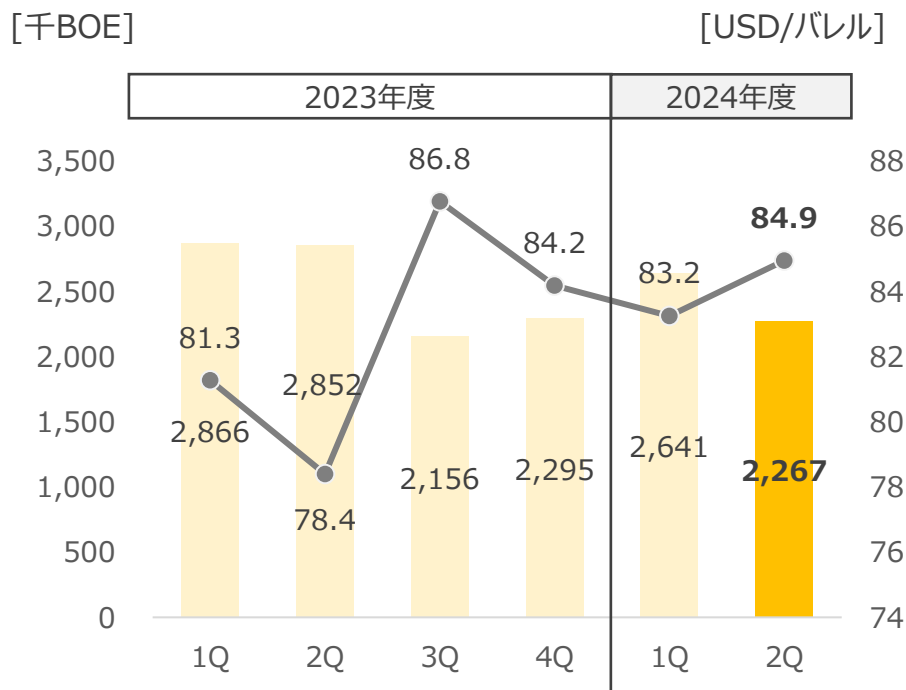
- ✓ トラブルに伴う調達コスト増及びバイオマス原料コスト上昇等により減益
- ✓ ソーラーフロンティアは構造改革に伴うコスト低減等により収支改善
- ✓ 海外事業は価格要因等により減益

セグメント別情報

[石油開発] 前年比▲6億円

(23年度2Q : 105億円 → 24年度2Q : 99億円)

〈原油・ガス生産数量・ブレント原油価格推移〉



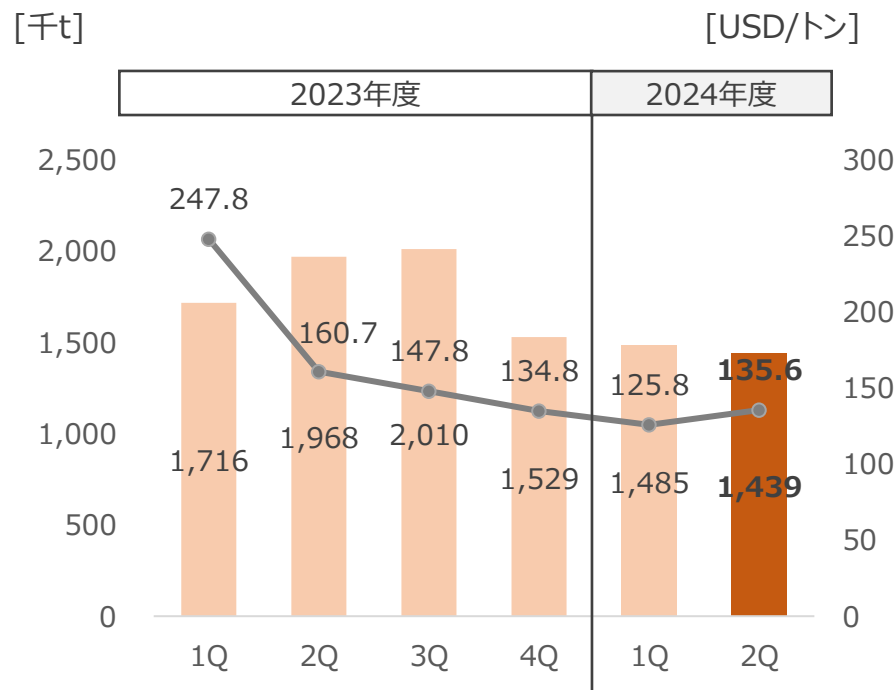
✓ 原油高・円安であったものの生産数量減少のため減益

※数値は資源開発関係会社の保有権益、持分割合ベース
 ※23年度1Qの数値に誤りがあったため修正

[石炭] 前年比▲265億円

(23年度2Q : 593億円 → 24年度2Q : 328億円)

〈石炭生産数量・豪州一般炭スポット価格推移〉



✓ 石炭市況の下落に伴う価格要因等で減益

※マッセルブルック鉱山は23年3月に終掘、エンシャム鉱山は23年8月に売却

財務状況

[億円]

	24/3末	24/9末	増減		24/3末	24/9末	増減
現金・預金	1,393	316	▲ 1,077	流動負債計	21,925	18,558	▲ 3,367
売掛債権 たな卸資産等	27,775	25,008	▲ 2,767	固定負債計	10,073	9,470	▲ 603
流動資産計	29,168	25,325	▲ 3,844	負債合計	31,998	28,028	▲ 3,970
有形固定資産	13,626	13,926	+300	株主資本 その他の包括利益累計	17,999	18,672	+ 674
その他固定資産	7,329	7,620	+291	非支配株主持分	126	170	+ 43
固定資産計	20,955	21,546	+591	純資産計	18,125	18,842	+ 717
総資産計	50,123	46,870	▲ 3,253	負債・純資産計	50,123	46,870	▲ 3,253

ネットD/Eレシオ	0.67	0.60	▲0.07
有利子負債計	13,427	11,437	▲1,990
自己資本比率	35.9%	39.8%	+3.9%

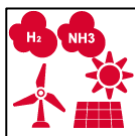
キャッシュフローの状況

[億円]

営業活動によるキャッシュフロー	2,218
税引前当期純利益	1,308
減価償却費	519
運転資本の増減	1,694
その他	▲ 1,303
投資活動によるキャッシュフロー	▲ 470
有形固定資産の取得	▲ 356
その他	▲ 114
財務活動によるキャッシュフロー	▲ 2,880
借入金増減	▲ 2,192
株主還元（配当金支払、自己株式取得）	▲ 702
その他	14
現預金等に係る換算差額等	▲ 44
現預金等の増減額	▲ 1,176
現預金等の期首残高※	1,475
現預金等の期末残高	299

■ 中期経営計画の進捗状況

※中期経営計画の進捗にかかわるトピックス（次頁以降）のマークは以下の事業領域を指す



一歩先のエネルギー



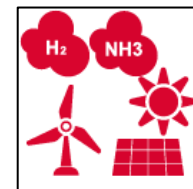
多様な省資源・
資源循環ソリューション



スマートよろずや

中期経営計画の進捗にかかわるトピックス（1/3）

■ 合成燃料分野におけるJOGMECとのHIF Global社への共同出資体制について ～e-メタノール等の合成燃料サプライチェーン構築の推進を加速～



- ✓ HIF Global社に対する共同出資が独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構（JOGMEC）の出資制度に採択
- ✓ 出資先のHIF社は、低コストの再生可能エネルギーをベースに、水素を既存のインフラで輸送・利用可能な合成燃料に変換するプロジェクトを推進
- ✓ 政府機関との連携を深め、カーボンニュートラル燃料として有望なe-メタノール等の合成燃料サプライチェーン構築を加速



e-メタノール製造プロジェクトイメージ図
（HIF社米国テキサス州Matagorda）

（当社開示文書リンク）

<https://www.idemitsu.com/jp/news/2024/240808.pdf>

中期経営計画の進捗にかかわるトピックス（2/3）

■ KeePer技研と戦略的業務提携に合意 ～新業態のカーコーティング&洗車専門店を全国展開～

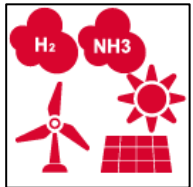


- ✓ KeePer技研株式会社と新業態のカーコーティング&洗車専門店の全国展開を目指し、戦略的業務提携に合意
- ✓ 当社のサービスステーション(SS)併設やSSを廃止した遊休地の活用等を通じて、2026年8月までに20店舗、2030年までに150店舗のスピーディーな展開を目指す

(当社開示文書リンク)

https://www.idemitsu.com/jp/news/2024/240809_1.pdf

■ クリーンアンモニア分野における三菱商事との共同検討について ～海外からの大規模かつ安定的なクリーンアンモニアサプライチェーン構築の推進を加速～



- ✓ ExxonMobilが米国テキサス州・ベイタウンで推進するクリーン水素・アンモニア製造プロジェクト※への参画、アンモニアの引き取り、運搬船や輸入受入拠点の効率運用に関し、三菱商事と共同検討することに合意

※ 製造時に排出される二酸化炭素の約98%を回収することで、カーボンフリーに極めて近い低炭素水素及び低炭素アンモニアを製造するプロジェクト。2025年の最終投資決定、2029年までのクリーン水素（年間約90万トン）及びクリーンアンモニア（年間100万トン以上）の生産開始を目指す

(当社開示文書リンク)

https://www.idemitsu.com/jp/news/2024/241023_1.pdf

中期経営計画の進捗にかかわるトピックス（3/3）

■ 2027～2028年の全固体電池実用化に向けた 固体電解質 大型パイロット装置の基本設計を開始

- ✓ 固体電解質の大型パイロット装置の基本設計を本年10月に開始
- ✓ 生産能力は年間数百トン进行予定。世界でもトップクラスの生産規模
- ✓ 最終投資決定（FID）は2025年中を見込み、完工は2027年を目指す

（当社開示文書リンク）

<https://www.idemitsu.com/jp/news/2024/241028.pdf>

（参考：出光とトヨタ、バッテリーEV 用全固体電池の量産実現に向けた協業を開始）

<https://www.idemitsu.com/jp/news/2023/231012.pdf>

■ 日本証券アナリスト協会による24年度「ディスクロージャー優良企業選定」 エネルギー部門 2年連続第1位を獲得

- ✓ エネルギー部門（対象企業21社）において、2年連続で第1位の優良企業に選定
- ✓ 5つの評価基準全てにおいて昨年度対比で得点率が改善し、とりわけ「経営陣のIR姿勢等」で高評価を獲得

（当社開示文書リンク）

<https://www.idemitsu.com/jp/news/2024/241022.pdf>



投資の状況

[億円]

	24年度 上期実績	24年度 通期見通し (5/14公表)
CN投資	219	750
成長投資	161	1,750
戦略系投資	380	2,500
操業維持投資	293	800
合計	673	3,300

※金額は支出ベース

【戦略系投資について】

- ✓ 上期実績の主な案件は、合成メタノールのプロジェクト開発を行うHIF Global社への出資
- ✓ 上期実績は通期見通しの2割程度の進捗であるが、下期は高機能材セグメント成長投資を想定、24年度通期の見通しは5/14公表から変更なし

■ 参考資料

決算関連

■ セグメント別売上高

[億円]

	23年度2Q	24年度2Q	増減	
燃料油	31,891	37,507	+5,617	+17.6%
基礎化学品	2,802	2,946	+144	+5.2%
高機能材	2,484	2,508	+25	+1.0%
電力・再生可能エネルギー	721	655	▲ 66	▲ 9.2%
資源*	2,333	1,360	▲ 973	▲ 41.7%
(内 石油開発)	(218)	(217)	(▲1)	(▲0.6%)
(内 石炭)	(2,115)	(1,143)	(▲972)	(▲46.0%)
その他	14	63	+49	+351.4%
セグメント合計	40,245	45,040	+4,796	+11.9%

*資源に含まれる石油開発（うちIIN）及び石炭は12月決算

決算関連

■ セグメント利益四半期推移（累計・在庫影響除き）

[億円]

	23年度				24年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
燃料油セグメント	184	1,050	1,141	1,672	478	628
持分法投資損益	49	38	69	99	51	108
基礎化学品セグメント	▲ 14	120	214	220	75	34
持分法投資損益	▲ 6	▲ 10	▲ 18	▲ 40	▲ 3	3
高機能材セグメント	55	134	228	276	78	160
持分法投資損益	▲ 2	▲ 1	4	3	1	3
電力・再生可能エネルギーセグメント	▲ 5	▲ 4	▲ 23	▲ 76	▲ 30	▲ 58
持分法投資損益	3	3	8	3	▲ 3	▲ 6
資源セグメント						
-石油開発	57	105	133	191	65	99
持分法投資損益	35	53	73	103	31	56
-石炭	347	593	764	978	183	328
持分法投資損益	▲ 0	▲ 0	▲ 0	▲ 1	▲ 0	▲ 1
その他セグメント	▲ 51	▲ 52	▲ 115	▲ 156	▲ 28	▲ 51
持分法投資損益	0	0	▲ 0	▲ 0	▲ 0	▲ 2
セグメント合計	574	1,946	2,341	3,106	822	1,140
持分法投資損益	78	83	136	167	76	161

決算関連

■ セグメント利益四半期推移（Q別・在庫影響除き）

[億円]

	23年度				24年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
燃料油セグメント	184	866	90	531	478	149
持分法投資損益	49	▲ 10	31	30	51	57
基礎化学品セグメント	▲ 14	134	94	7	75	▲ 41
持分法投資損益	▲ 6	▲ 4	▲ 8	▲ 22	▲ 3	6
高機能材セグメント	55	78	94	48	78	82
持分法投資損益	▲ 2	1	5	▲ 1	1	2
電力・再生可能エネルギーセグメント	▲ 5	1	▲ 19	▲ 53	▲ 30	▲ 28
持分法投資損益	3	0	4	▲ 5	▲ 3	▲ 3
資源セグメント						
-石油開発	57	48	28	59	65	34
持分法投資損益	35	18	21	30	31	26
-石炭	347	246	172	214	183	146
持分法投資損益	▲ 0	▲ 0	▲ 0	▲ 0	▲ 0	▲ 0
その他セグメント	▲ 51	▲ 1	▲ 63	▲ 41	▲ 28	▲ 23
持分法投資損益	0	0	▲ 0	0	▲ 0	▲ 2
セグメント合計	574	1,371	396	764	822	319
持分法投資損益	78	5	52	32	76	85

感応度

■ 主要前提の変動による主な営業利益影響（3-4Q）

分類	指標	24年度前提	変動幅	セグメント	収支影響 (億円)	主な影響
在庫影響 除き	原油価格	85.0\$/bbl	±10\$/bbl	燃料油	±260	タイムラグ、 自家燃
	シンガポール製品マージン	—	±5\$/bbl		±190	輸出
	為替レート	145.0¥/\$	±5¥/\$		±80	タイムラグ、 自家燃
	豪州一般炭スポット価格	125.0\$/t	±10\$/t	資源（石炭）	±5	一般炭
在庫影響	原油価格	85.0\$/bbl	±10\$/bbl	燃料油	±640	
	為替レート	145.0¥/\$	±5¥/\$		±190	

※燃料油セグメントは、国内製油所で生産される製品についてのみの影響であり、上記の他、海外店の販売に伴う収支変動の影響を受けます

※資源セグメント（石炭）は、12月決算につき、前提は1-12月平均、収支は3か月分のみ影響を示しています

販売数量実績

■ 燃料油セグメント

[千KL,%]

	23年度2Q	24年度2Q	増減	
ガソリン	6,537	6,392	▲ 146	▲ 2.2%
ナフサ	192	160	▲ 32	▲ 16.6%
ジェット燃料	1,244	1,247	+3	+0.2%
灯油	750	665	▲ 85	▲ 11.4%
軽油	5,028	5,019	▲ 9	▲ 0.2%
A重油	1,368	1,322	▲ 46	▲ 3.3%
C重油	1,159	833	▲ 326	▲ 28.2%
国内燃料油販売計	16,278	15,637	▲ 641	▲ 3.9%
輸出燃料油	3,067	2,548	▲ 519	▲ 16.9%
燃料油販売計	19,345	18,185	▲ 1,160	▲ 6.0%

※ジェット燃料及びC重油に含むボンド輸出数量は輸出燃料油に含めて表示

販売数量実績

■ 基礎化学品セグメント

[千t,%]

	23年度2Q	24年度2Q	増減	
基礎化学品	1,617	1,478	▲ 139	▲ 8.6%

■ 高機能材セグメント

[千KL,千t,%]

	23年度2Q	24年度2Q	増減	
潤滑油	565	542	▲ 23	▲ 4.0%
機能化学品	299	242	▲ 57	▲ 19.0%

※潤滑油は海外ライセンス販売先を含む

■ 電力・再生可能エネルギーセグメント

[百万kwh,%]

	23年度2Q	24年度2Q	増減	
電力小売販売量	1,020	855	▲ 165	▲ 16.2%

生産数量実績

■ 資源セグメント (ガス・石油生産量)

[千BOED,%]

	23年度2Q	24年度2Q	増減	
ベトナム	16.8	14.0	▲ 2.8	▲ 16.6%
ノルウェー	14.8	12.9	▲ 1.9	▲ 13.0%
生産量合計 (千BOED)	31.6	26.9	▲ 4.7	▲ 14.9%
生産量合計 (千BOE)	5,718	4,908	▲ 810	▲ 14.2%

※数値は資源開発子会社の保有権益、持分割合ベース

※12月決算につき、23年度2Qは1-6月の数量。24年度2Qは、ノルウェーは1-6月の数量、ベトナムは決算月変更により4-9月の数量

■ 資源セグメント (石炭生産量)

[千t,%]

	23年度2Q	24年度2Q	増減	
エンシャム	1,252	-	▲ 1,252	-
マッセルブルック	15	-	▲ 15	-
ボガブライ	2,417	2,924	+507	+21.0%
豪州石炭 合計	3,684	2,924	▲ 759	▲ 20.6%

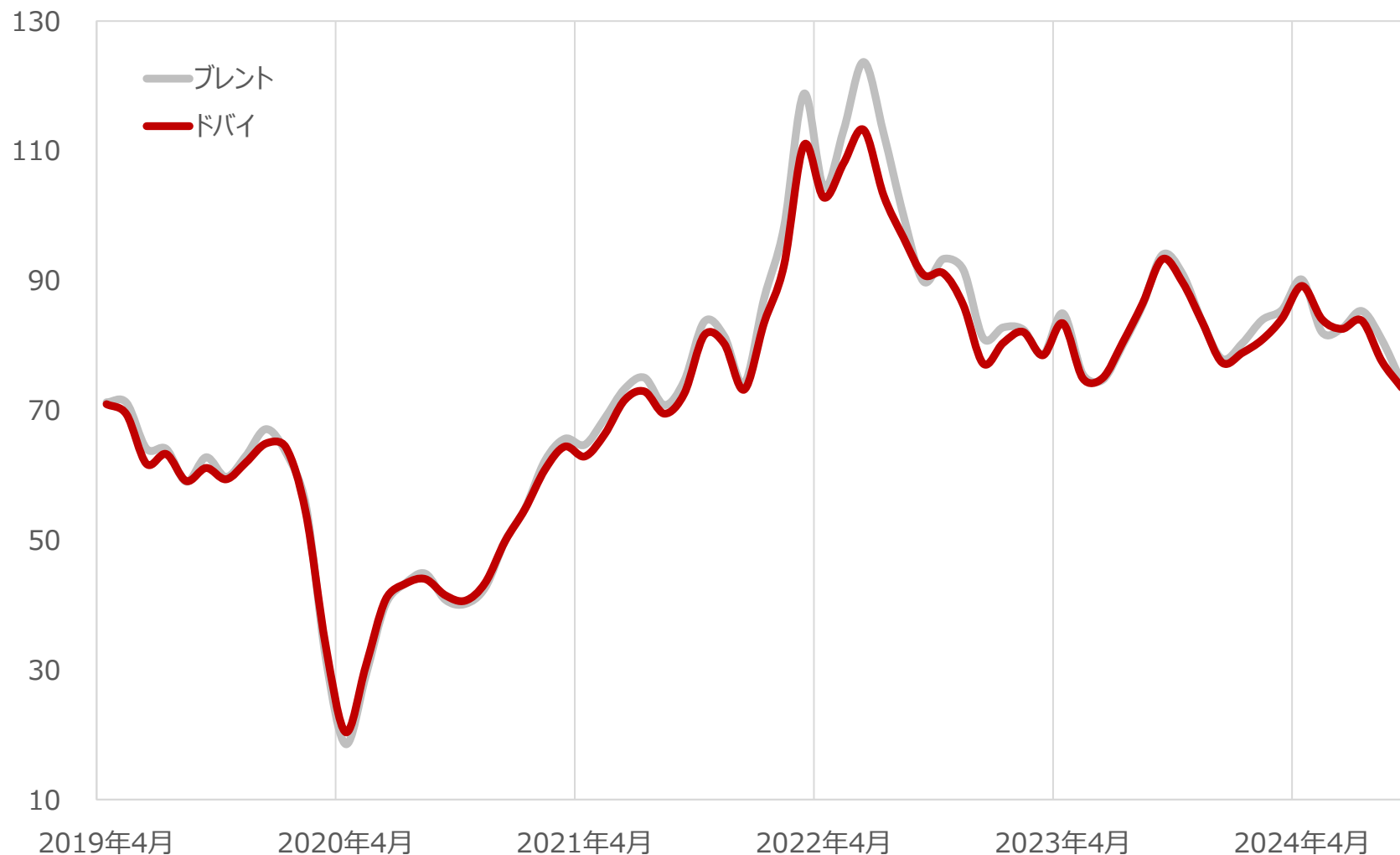
※数値は当社グループの保有権益ベース

※12月決算につき、1-6月の数量

※マッセルブルック鉱山は23年3月に終掘、エンシャム鉱山は23年8月に売却

原油価格（ドバイ原油・ブレント原油）

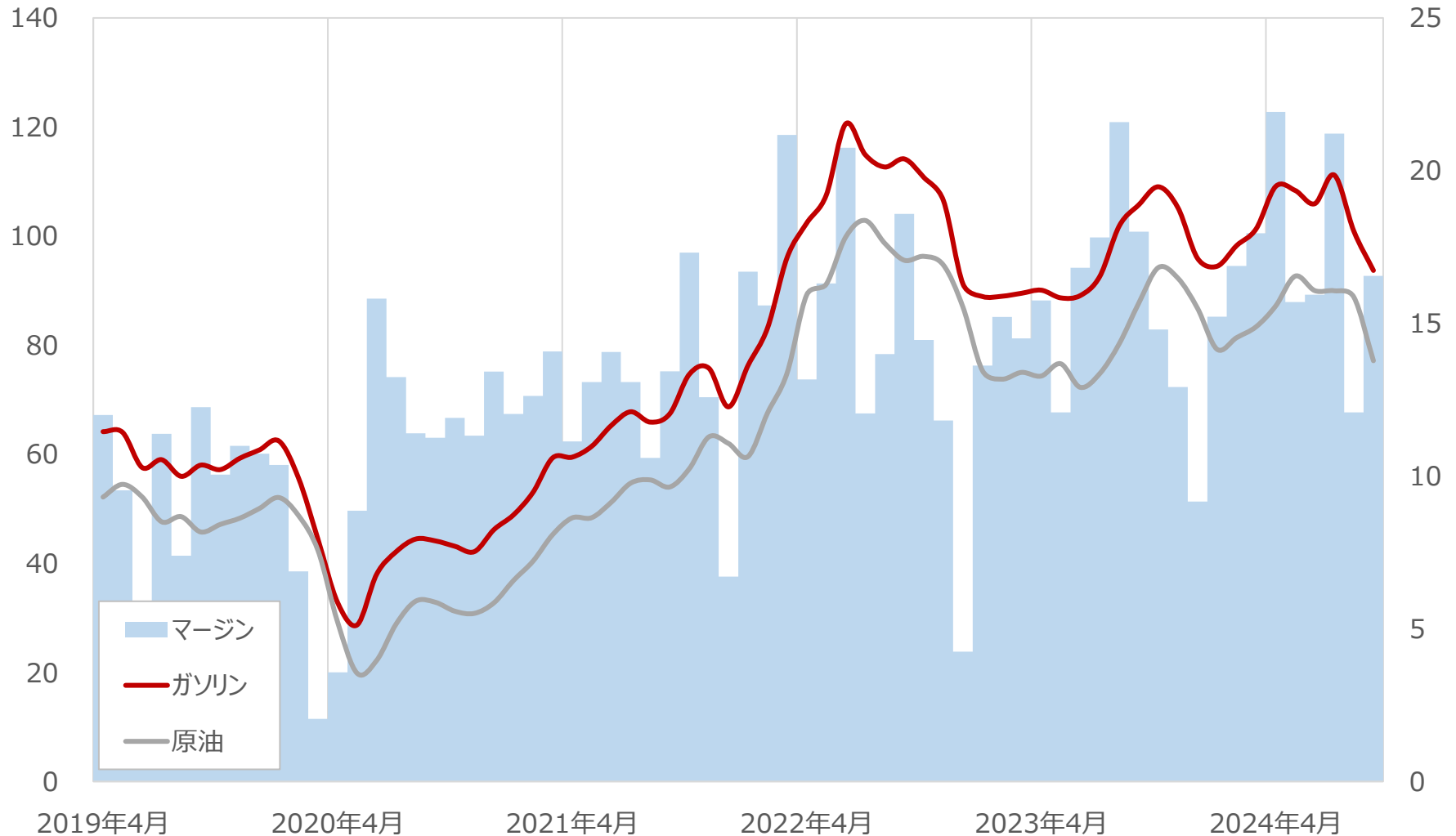
[USD/バレル]



ガソリン（国内スポット価格 - 原油）

[原油・製品：円/リットル]

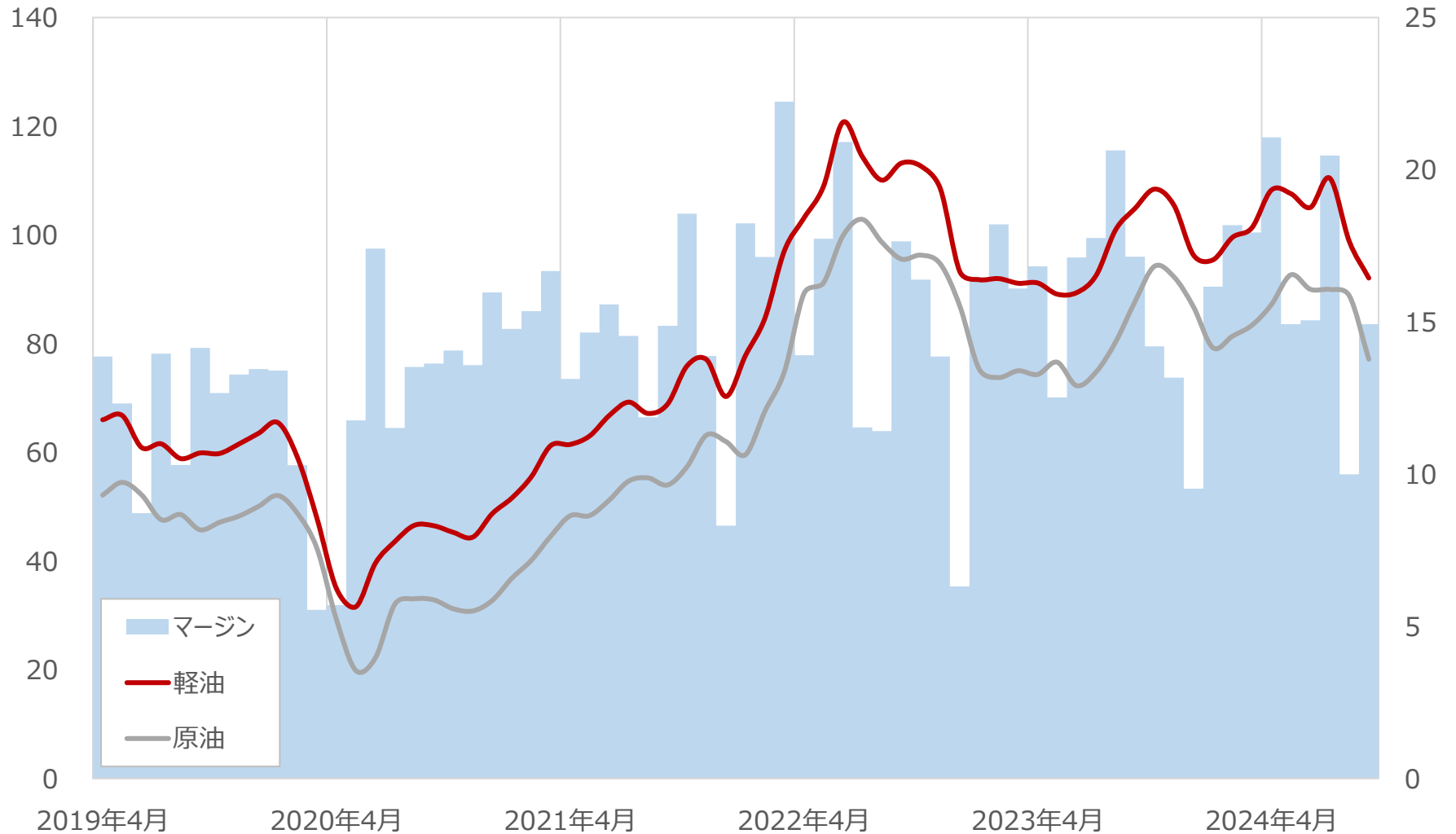
[マージン：円/リットル]



軽油（国内スポット価格 - 原油）

[原油・製品：円/リットル]

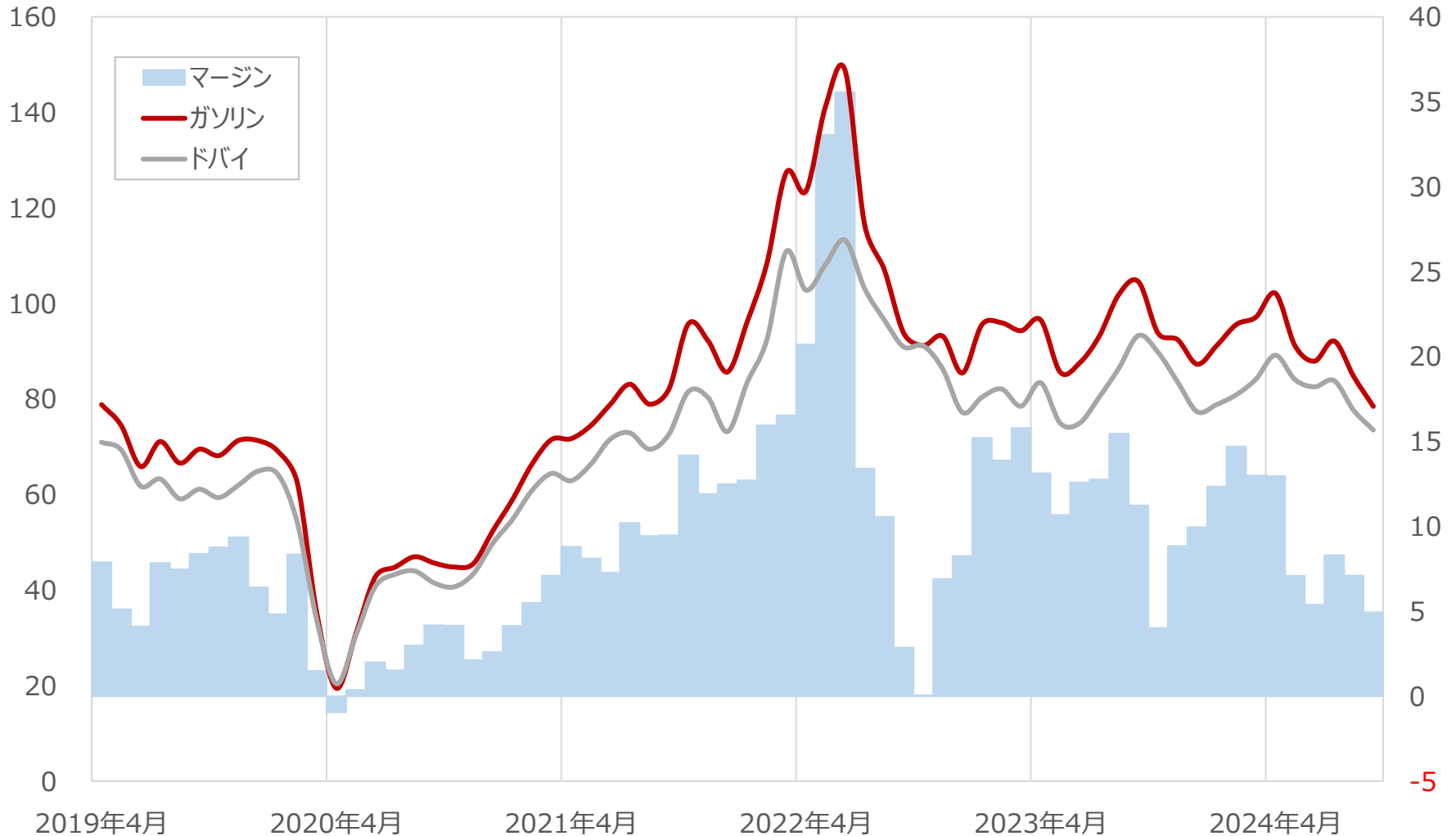
[マージン：円/リットル]



ガソリン（シンガポールスポット価格 - ドバイ原油）

[原油・製品 : USD/バレル]

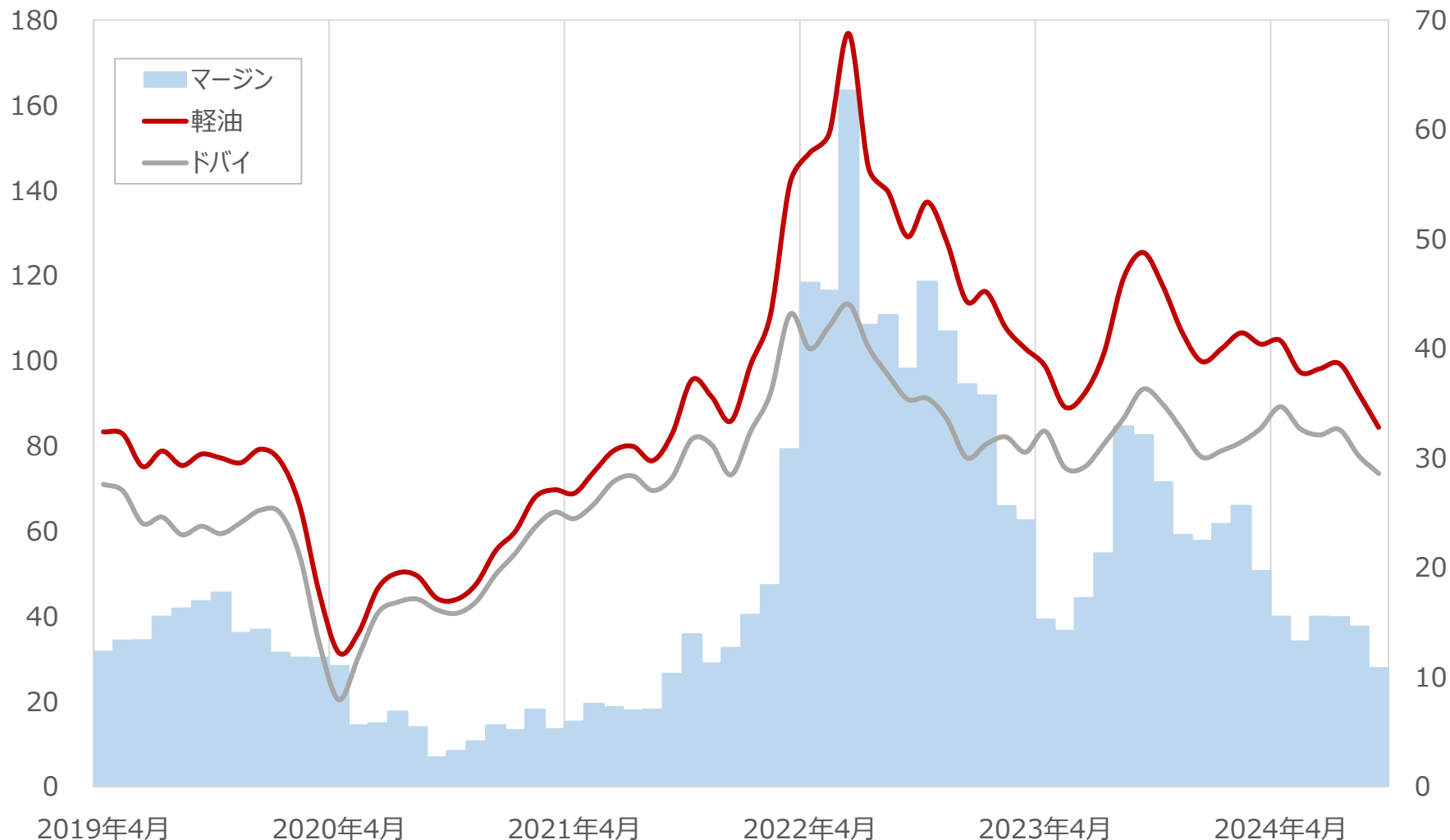
[マージン : USD/バレル]



軽油（シンガポールスポット価格 - ドバイ原油）

[原油・製品 : USD/バレル]

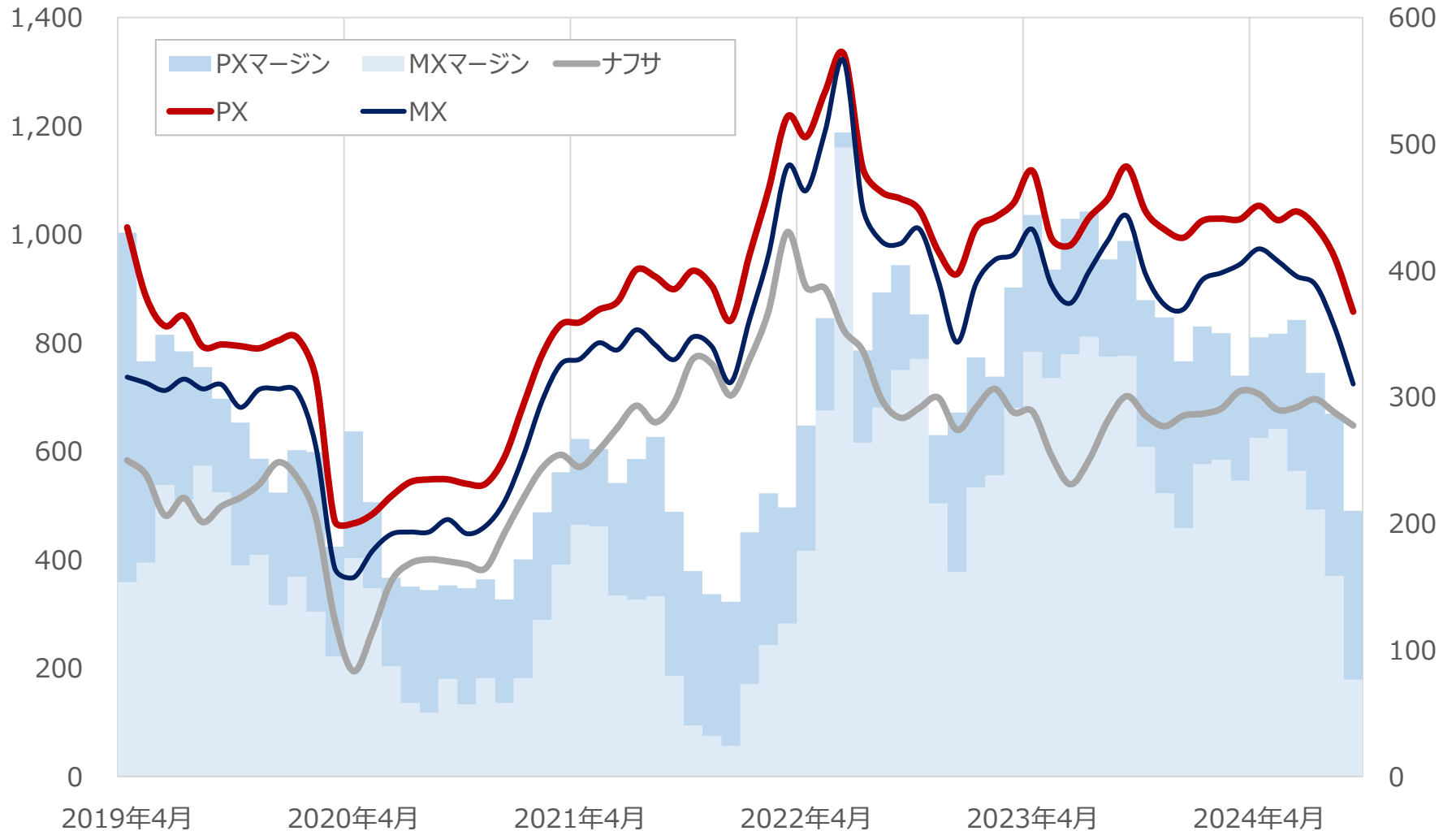
[マージン : USD/バレル]



パラキシレン・ミックスキシレン - ナフサ

[ナフサ・製品 : USD/トン]

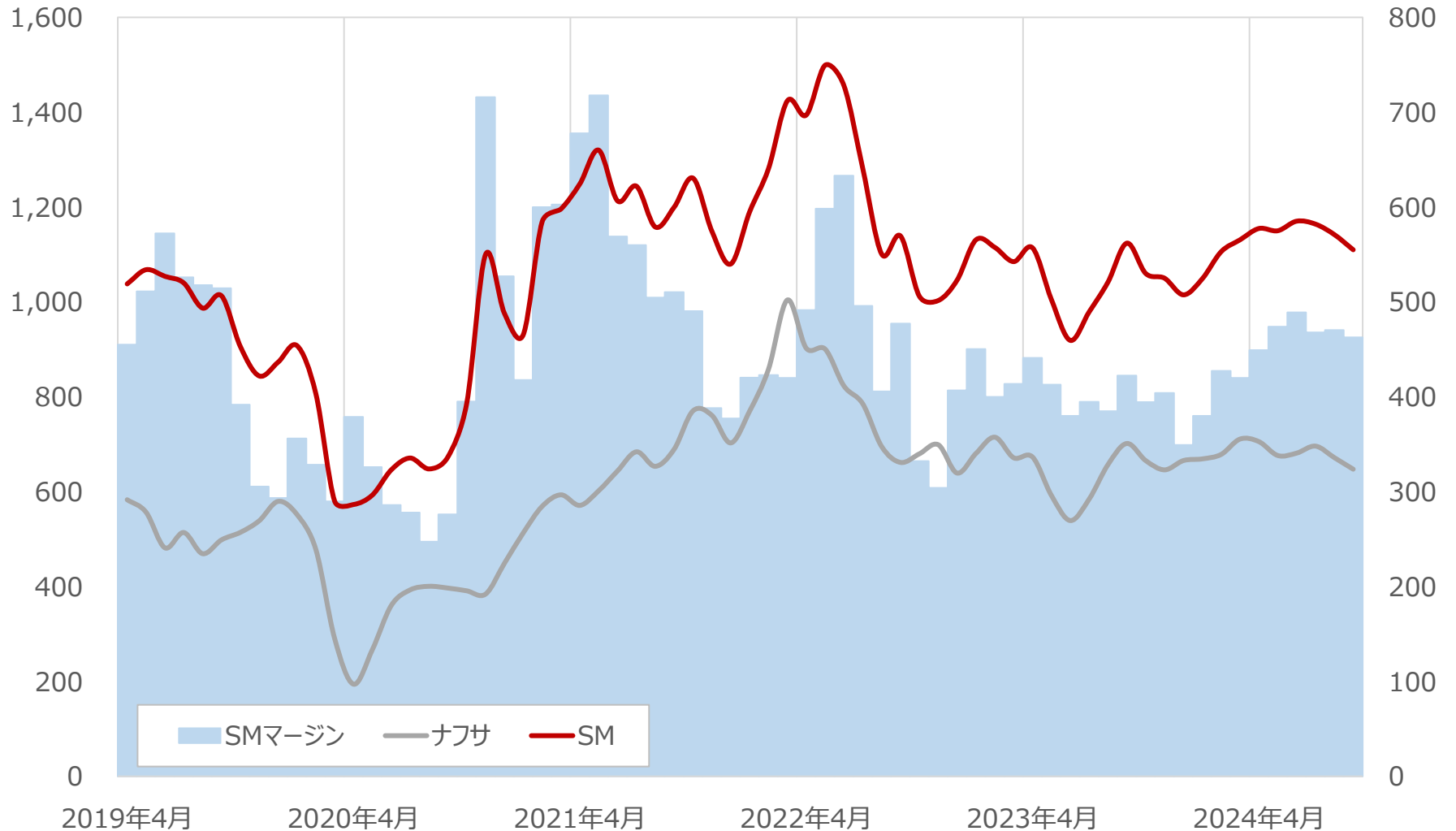
[マージン : USD/トン]



スチレンモノマー - ナフサ

[ナフサ・製品 : USD/トン]

[マージン : USD/トン]



オペレーショナルデータ

■ 製油所稼働率

20年度	21年度	22年度	23年度	24年度 2Q
78%	77%	83%	78%	68% (73%)

※稼働率は定修を含むBCDベース

※山口製油所（12.0万BBL/D）は24年3月に原油処理を停止したが、公称能力の引き下げは7月以降。括弧内は補正後の実質稼働率

■ SS数

20年度	21年度	22年度	23年度	24年度 2Q
6,311	6,216	6,136	5,986	5,953

2024年度通期業績見通し（5/14公表値より変更なし）

■ 原油、石炭価格および為替レート

[USD/バレル、USD/トン、円/USD]

	23年度	24年度	増減	
ドバイ原油価格	82.3	85.0	+2.7	+3.2%
ブレント原油価格*	82.6	85.0	+2.4	+2.8%
豪州一般炭スポット価格*	172.8	125.0	▲ 47.8	▲ 27.7%
為替レート	144.6	145.0	+0.4	+0.3%

*ブレント原油価格及び豪州一般炭価格は1-12月平均

■ 連結損益計算書ハイライト

[億円]

	23年度	24年度	増減	
売上高	87,192	87,000	▲ 192	▲ 0.2%
営業利益	3,463	1,690	▲ 1,773	▲ 51.2%
（内 在庫評価損益）	(525)	(0)	(▲525)	(▲100.0%)
持分法投資損益	167	160	▲ 7	▲ 4.3%
営業+持分	3,630	1,850	▲ 1,780	▲ 49.0%
（在庫影響除き）	(3,106)	(1,850)	(▲1,256)	(▲40.4%)
経常利益	3,852	1,880	▲ 1,972	▲ 51.2%
特別損益	▲ 585	▲ 120	+465	—
当期純利益	2,285	1,250	▲ 1,035	▲ 45.3%
（在庫影響除き）	(1,921)	(1,250)	(▲671)	(▲34.9%)

2024年度通期セグメント別情報 (5/14公表値より変更なし)

■ 営業利益 + 持分法投資損益

[億円]

	23年度	24年度	増減		24年度
					(参考：中計)
燃料油	2,197	1,020	▲ 1,177	▲ 53.6%	1,020
(在庫影響除き)	(1,672)	(1,020)	(▲ 652)	(▲ 39.0%)	(1,020)
基礎化学品	220	260	+39	+17.9%	260
高機能材	276	310	+34	+12.4%	280
電力・再生可能エネルギー	▲ 76	▲ 30	+46	-	30
資源*	1,169	570	▲ 599	▲ 51.3%	540
(内 石油開発)	(191)	(120)	(▲ 71)	(▲ 37.2%)	(130)
(内 石炭)	(978)	(450)	(▲ 528)	(▲ 54.0%)	(410)
その他	▲ 156	▲ 280	▲ 124	-	▲ 180
セグメント合計	3,630	1,850	▲ 1,780	▲ 49.0%	1,950
(在庫影響除き)	(3,106)	(1,850)	(▲ 1,256)	(▲ 40.4%)	(1,950)

*資源に含まれる石油開発及び石炭は12月決算

当社グループの概要

2023年度実績
または2024年3月末時点

燃料油	高機能材
<ul style="list-style-type: none"> 原油処理能力 82.5万バレル /日 ※1,2) 国内燃料油販売量 3,400万KL /年※3) SS数 6,000カ所 	<ul style="list-style-type: none"> 潤滑油、機能化学品、電子材料、機能舗装材（高機能アスファルト）、農薬・機能性飼料、リチウムイオン電池材料
基礎化学品	
<p>(生産能力 ※2)</p> <ul style="list-style-type: none"> エチレン 100万t /年 パラキシレン 84万t /年 ミックスキシレン 69万t /年 スチレンモノマー 79万t /年 	<ul style="list-style-type: none"> 潤滑油販売量 110万KL /年 エンジニアリングプラスチック(販売数量) 15万t /年 有機EL材料(生産能力) 26t /年
電力・再生可能エネルギー	資源
<ul style="list-style-type: none"> 発電能力 194万kW - うち 再生可能エネルギー 83万kW 	<ul style="list-style-type: none"> 原油生産量 2.5万バレル /日 一般炭生産量 570万t /年※4)

※1) 24年7月以降の能力。山口製油所（12.0万BBL/D）は24年3月をもって原油処理を停止。
石油製品取引契約を締結する富士石油株式会社の原油処理能力を加えると96.8万バレル/日

※2) ニソンの能力は含まない

※3) ボンドジェット燃料及びボンドC重油は輸出燃料油（国内燃料油販売量に含まず）に計上

※4) 24年度業績見通しの数値。マッセルブルック鉱山は23年3月に終掘、エンシャム鉱山は23年8月に売却

燃料油セグメント

[万BBL/D]

運営会社	製油所	原油処理能力	重油直接 脱硫装置 (RH)	流動接触 分解装置 (FCC)	重油流動 接触分解装置 (RFCC)	重質油 熱分解装置 (FLG)	備考 (出資比率)
出光興産	国内 北海道製油所	14.0	4.2		3.3		
	千葉事業所	19.5	4.0		4.5		
	愛知事業所	16.5	6.0		5.0		
昭和四日市石油	四日市製油所	25.5	4.5		6.1		75.0%
東亜石油	京浜製油所	7.0		4.2		2.7	100.0%
	合計	82.5	18.7	4.2	18.9	2.7	
Nghì Son Refinery and Petrochemical LLC	海外 ニソン製油所	20.0	10.5		8.0		35.1%
	(ベトナムタインホア省)						
	合計	20.0	10.5		8.0		

※1) 各製油所の装置能力は出資比率を考慮しないベース

※2) 山口製油所(12.0万BBL/D)は24年3月をもって原油処理を停止

※3) 上記は24年9月以降の能力

基礎化学品セグメント

[千トン/年]

運営会社	工場	主要化学製品生産能力				備考 (出資比率)
		オレフィン	アロマ			
		エチレン	パラキシレン	ミックスキシレン	スチレンモノマー	
出光興産	国内 千葉事業所	374	265		210	
	愛知事業所		357	170		
	徳山事業所	623	214		340	
昭和四日市石油	四日市製油所			518		75.0%
	合計	997	836	688	550	
Idemitsu SM (Malaysia) Sdn. Bhd.	海外 パシルグダン事業所 (マレーシアジョホール州)				240	70.0%
	Nghi Son Refinery and Petrochemical LLC	ニソン製油所 (ベトナムタインホア省)		700		35.1%
	合計		700		240	

※1) 装置能力は出資比率を考慮しないベース

※2) 山口製油所(12.0万BBL/D)は24年3月をもって原油処理を停止。

※3) 上記は24年7月以降の能力

高性能材セグメント (1/2)

潤滑油

◆製品群

- ・自動車向け潤滑油（エンジンオイル等）
- ・グリース
- ・工業用潤滑油（油圧作動油・切削油等）等

- ◆自動車向け潤滑油を中心に、グローバルに事業を展開
 - ・世界シェア8位
 - ・海外売上比率50%超

◆研究開発拠点

- ・日本国内および海外(米国、中国他)

◆潤滑油グローバルネットワーク



- ・世界28ヶ国の製造・販売・研究開発ネットワーク
- ・既存設備の増強、新規拠点開発を推進

機能化学品

◆製品群

- エンジニアリングプラスチック、粘接着基材、誘導品、溶剤、機能材料

◆主な製品と用途、特徴

エンジニアリングプラスチック

(製品) PC/ポリカーボネート樹脂

(用途) スマートフォンやレンズ、自動車照明用等

(特徴) プラスチック中最高の耐衝撃性。
透明性や表明光沢、難燃性にも優れる

(製品) SPS/シンジオタクチックポリスチレン樹脂

(用途) 自動車電装部品、調理家電等

(特徴) 軽量である他、耐熱性、電気特性、耐薬品性、
耐加水分解性に優れる



デイトタイムランニングライト
(DRL)



自動車部品

粘接着基材

(製品) 水添石油樹脂

(用途) ホットメルト接着剤の粘着付与剤（衛生材分野）



オムツ等衛生材

高性能材セグメント (2/2)

電子材料	機能舗装材 (高性能アスファルト)
<p>◆製品群</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンやテレビなどに搭載される有機ELディスプレイ用材料 ・ディスプレイ用半導体材料 等 <p>◆有機EL製造・カスタマーサポート拠点</p>  <p>韓国12トン (パジュ工場)</p> <p>国内2トン (御前崎製造所)</p> <p>中国12トン (成都工場)</p> <p>・アジア地域での更なる有機EL材料事業の拡大に向け、工場・カスタマーサポート拠点を置き、ディスプレイメーカー等との関係強化に取り組んでいる</p> <p>・ディスプレイ製品の省エネ化・画質向上が期待される酸化物半導体材料の開発、事業化を進める</p>	<p>◆最先端の技術開発に取り組むアスファルトメーカー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル、長寿命化、カーボンニュートラル <p>◆製品群</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土木/建築用アスファルト ・工業用アスファルト ・道路用高性能アスファルト  <p>東大寺</p> <p>メイブライト (道路用高性能アスファルト)</p> <p>農薬・機能性飼料</p> <p>◆製品群</p> <ul style="list-style-type: none"> ・化学農薬 (ダコニール1000※1等) ・生物農薬 ・機能性飼料 (ルミナップ※2等)  <p>ダコニール 1000</p> <p>ルミナップ</p>

※1 様々な作物、病害に対して安定した効果を示し、生物への影響が少ない保護殺菌剤
 ※2 牛のげっぷに含まれるメタンガスを低減する効果を持つカシューナッツ殻液を含む畜産飼料

電力・再生可能エネルギーセグメント

電力

区分	発電所	運営会社	出資比率 (%)	発電能力* (万KW)
太陽光	国内（全国34ヶ所）	出光興産他	—	18.7
バイオマス	京浜バイオマス発電所（神奈川県）	京浜バイオマスパワー	100	4.9
	土佐発電所（高知県）	土佐グリーンパワー	50	0.3
	福井グリーンパワー大野発電所（福井県）	福井グリーンパワー	10	0.1
	出光徳山バイオマス発電所（山口県）	出光興産	—	5.0
風力	六ヶ所村二又風力発電所（青森県）	二又風力開発	40	2.0
地熱	滝上バイナリー発電所（大分県）※	出光大分地熱	100	0.5
再エネ（国内）				31.5
火力	扇島パワーステーション（神奈川県）	扇島パワー	25	30.5
	東亜石油水江発電所（神奈川県）	東亜石油	100	27.6
	愛知事業所第3号発電設備（愛知県）	出光興産	—	25.0
国内				114.9
太陽光	海外（北米、ベトナムなど）	—	—	52.1
火力	海外	—	—	27.1
海外				79.2
合計				194.1

*発電能力は当社の出資比率を加味

- ◆再生可能エネルギーの発電能力として83.6万KW保有（国内：31.5万kW、海外：52.1万kW）
- ◆自社電源(火力)を活用し、卸売り、高圧・低圧の小売りを展開

ソーラー

- ◆22年6月にパネル製造は終了
- ◆太陽光発電所の設計・施工・メンテナンス及びリサイクルを担うシステムインテグレーターへ転換

資源セグメント（ガス・石油開発）

事業概要

- ベトナムおよびノルウェーにおいて原油・ガスの生産・販売を行う
- 低炭素社会への移行期において重要なエネルギーである天然ガスへのシフトを目指し、ベトナムをはじめとする東南アジア地域においてガス田探鉱・開発を行う

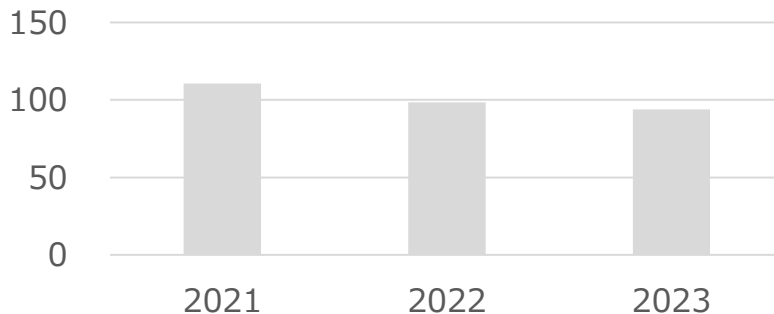
◆生産油ガス田と販売先

	油ガス田名称	権益保有会社	販売地域
ベトナム	サオバン・ダイグエット	Idemitsu Gas Production (Vietnam) Co.,Ltd. ※保有比率43.08%	アジア
ノルウェー	スノーレ	INPEX Idemitsu Norge AS	欧州
	トルディス/ビッグディス		
	フラム		
	Hノルド		
	ビュールディング		
	ベガ		
	ドゥーヴァ		

生産油ガス田の埋蔵量

◆埋蔵量※1,2

[百万BOE]



※1ノルウェー油田群およびベトナムガス田における埋蔵量の合計

※2埋蔵量は当社の権益比率および持分比率を反映した数値

◆埋蔵量評価基準

- 当社の埋蔵量評価はPRMS (Petroleum Resources Management System) 基準に準拠
- PRMS基準は、石油技術者協会 (Society of Petroleum Engineers : SPE), 世界石油会議 (World Petroleum Congress : WPC), 米国石油地質技術者協会 (American Association of Petroleum Geologists : AAPG) 及び石油評価技術者協会 (Society of Petroleum Evaluation Engineers : SPEE) の4団体によって共同で策定され、国際基準として認識されている
- PRMS基準において定義されている埋蔵量 (Reserves) は、①確認、②推定、③予想埋蔵量に区分されるが、当社の埋蔵量評価は、確認および推定埋蔵量の合計値を示す

◆確認埋蔵量とは

- 確認埋蔵量は石油・ガス業界で一般的に用いられる埋蔵量の定義の中でも保守的と認識される
- 確認埋蔵量とは、地質的・工学的データに基づき現在の経済条件及び操業条件の下で商業的に合理的確実性をもって回収することが可能である石油・ガスの数量とされる
- 確率的手法を用いる場合、確認埋蔵量を回収できる確率が90%以上であるとされる

◆推定埋蔵量とは

- 推定埋蔵量とは、地質的・工学的データに基づき確認埋蔵量に追加して商業的に回収することが可能と推定される石油・ガスの数量
- 確率的手法を用いる場合、確認埋蔵量と推定埋蔵量を合算した数量を回収できる確率が50%以上であるとされる

資源セグメント（石炭）

事業概要	事業構造改革
<p>[事業戦略]</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆競争力の高いボガブライ鉱山の活用による安定供給と収益最大化 ◆出光グリーンエネルギーペレット等の低炭素ソリューション事業を推進 ◆長年豪州で培ってきた経営資源を活用し、レアメタル、再生可能エネルギー、水素・アンモニア等の新規事業への移行を推進 <p>1. 鉱山での事業</p> <p>オーストラリアで石炭鉱山(ボカブライ鉱山)を保有し、生産から販売まで一貫したサプライチェーンを構築、主に日本向けに高品位な石炭を安定供給</p> <p>[ボガブライ鉱山の概要]</p> <p>所在地：ニューサウスウェールズ州</p> <p>炭質：一般炭（約8割） 原料炭(SS/PCI)（約2割）</p> <p>出荷港：ニューキャッスル港（約360km、列車輸送）</p> <p>※マッセルブルック鉱山は23年3月に終掘、エンシャム鉱山は売却済</p>	<p>◆出光グリーンエネルギーペレット（ブラックペレット）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石炭火力発電所の燃料をブラックペレットに置き換えることで、CO₂排出量を減らすことが可能 ・石炭燃料の20～30%をブラックペレットに置き換える混焼実験に成功 ・24年度にベトナムで年産12万tの商業プラントを稼働予定。2030年には300万tの供給体制構築を目指す <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>◆豪州新規事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レアメタル：豪州でバナジウム事業を推進するVecco社へ投資 ・再エネ：豪州 マッセルブルック石炭鉱山採掘跡地で揚水型水力発電事業の事業化検証

見通しに関する注意事項

本資料に記載されている当社の業績見通し、戦略、経営方針などのうち、歴史的事実でないものは、将来に関する見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づいて作成しております。

実際の業績に影響を与え得る要素には、経済情勢、原油価格、石油製品の需要動向、市況、為替レートおよび金利など、潜在的风险や不確実性があるものを含んでおります。

従いまして、実際の業績は、これらの重要な要素の変動により、業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることを、ご承知おきください。